

少し疲れました

先月服部新聞第50号記念超特大号を大々的に書かせていただきました。4年間書き続けた服部新聞なので皆様に通過点とは言えある意味集大成にしたいと言う思いから書きました。内容は私流の書き方でしたが、読み応えを感じて頂けたら嬉しいし、継続して読んで頂いていない方たちにも単独の50号を読んで、木材の一言では言えない良さを感じて頂けたら嬉しいと言う思いから書きました。その為の記念号でした。

書くのにはすいぶん前から段取りをしていました。48号位から書くのと並行して記事の原稿を考え用意をしていました。まずまずの記念号が出来上がったと思います。

自分の木材に対する思いを先月号で書きつくしてしまった訳ではないのですが、最近何となく気持ちが『ハイにならない』、前向きにならないのです。

私は人間です、機械では有りません。日頃の体のメンテナンスは十二分にしていますがメンテナンスだけでは、機械みたいに規則正しく動きません。それで自分自身で心の問題かと思い、どうしようもないので他業種の同じ経営者の友人に相談しました。彼はこの事を簡単に一言で片付けるのです。

そう言う時期も有りますよ。『遊び足らんと違いますか。遊び方を教えますよ』とアドバイスをしてくれましたが、彼はお酒が飲めます。そして強いのです。しかし私は酒が全然飲めないで、彼からのアドバイスを聞いて単に遊びなさいと言われても、真似が出来ません。頭の中を空にする事を彼は薦めてくれたと思い、8年前から始めている大好きな趣味のスキューバダイビングに行きたいと随分と前から思っていたのですが、今年の異常気象のせいで中々潜りに行けませんでした。いつもなら年初めの1本目のダイブを2月から3月に出かけるのですが、今年は4月まで行けませんでした。又、お蔭様で仕事が大変忙しく遊びどころでは有りませんでした。

ようやく4月の17日～18日に時間が出来て、串本に泊まりで友人と潜りに行ったのです。昨年と較べると2度位海水温度が低いのです。又、気温も低いから海から上がったときは凄く寒いのです。

写真に写っていますが真ん中が私です。

左の友人は34歳です。右のインストラクターは30歳です。私は52歳です。年齢かもしれませんが、二人と較べると、海から上がって寒いから顔が縮じこまっているのが解かると思います。

ところで、服部商店の決算は9月末です。昨年の10月から新しい年度が始まっているのです。昨年の10月は、あまり成績は良く有りませんでした。しかし11月～4月までは大変お客様に恵まれて、売り上げは申し上げられませんが、体と頭を倍は使ったと思います。特に広葉樹の最もシーズンであった11月～3月の5ヶ月間は気力体力が充実して何とかお客様から頂いたご注文を納められたと思います。

日頃の体のメンテナンスは主に家の近所にある接骨院の治療です。マッサージ・電気治療・お灸治療・針治療と4種類の治療を色々な組み合わせで行なっているのですが、そこの先生が、私が忙しかった時期は凄く頭皮が硬くなっていて針を頭に刺す治療の時、凄く入りにくくなっていましたと言っていました。それがスキューバダイビングから帰ると頭皮が凄く柔らかくなっており、針治療もスムーズに出来ストレス解消になっていると教えてくれました。接骨院の治療で確かに日頃のストレスは解消されたのでしょうか。しかし単なるストレスが原因で思考回路が正常にオン・オフに機能しなくなっているのか、それとも違うのかは解かりません。私が自分の身体について個人的に思うのは、誰でも1年間の間に自分の体と頭を精一杯使う事にも限度が有り、それを年の前半でかなり使った物だからお釣りが少なくなってきたと思います。今月の服部新聞の内容は凄く品祖になったかも知れませんが、お許しを頂きたいと思います。



流れが変わりつつありますが単純な比較は難しいのが木材です。

素材価格は上昇局面にあります。木材価格も同様上昇局面にあります。しかし木材価格の単純な比較は非常に難しい作業です。価格を比較するのに一番解かり易そうな、工業化された商品のコンパネ合板でも、三十年以上昔大阪にて開催された万国博覧会当時に使われたコンパネ合板と現在の物を較べると、価格は現在の物が圧倒的に安いのですが、使われている原料は全然違います。単純に言えば昔のコンパネ合板は 100%ラワン合板でした。しかし今のコンパネラワン合板の芯はミックスの材が使用され、表面だけラワン材が使われた物が大半です。商品自体の価値は以前の方が断然優れていて、今の商品と較べられない良質のコンパネ合板でした。それがぼちぼち材質が悪くなり原木の径級が細くなってきて来るのが解かっていた機械メーカーが、小径原木のラワン材やラワン材の親戚の落ちる材でも、使えるような機械を開発し今が有るのです。

工業化された商品を上記の様に比較しても、その比較方法は絶対的な比較ではなく相対的な比較しか出来ません。その相対的な比較しか出来ない木材価格が上昇しているのです。日本国内に有る小径原木のヒノキ・スギは含まれていません。価格が昔の価格に戻ろうとする大きな動きは全然有りません。『小生が名古屋で奉公先の東海木材相互市場の浜問屋に勤めていた昭和56年頃の知っている価格→ヒノキ柱特一等長さ3メートル105ミリ角の管柱は立方当り125,000円位でした。現在の価格は半値以下です。しかも当時は基本的に生材でした。今は乾燥材です。従って人工乾燥代約立方当り7000円~10,000円を差し引けば三分の一の価格です。』予断な話ですが、外材が少し値上がりしてスギ・ヒノキに少し人気が出かけたと木材の専門新聞に書かれており10%~20%位の価格上昇が起きてても現在の国産ヒノキ・スギの小径原木価格は三十年昔の半値以下です。

日本のスギ・ヒノキ以外の全ての材が値上がり傾向に有るのです。昨年と比較してこれから値上げ率の少ない樹種で10%多い樹種が30%位ではなかろうかと聞いています。但しこの30%も近年との相対的な比較です。

値上がりの理由は海上運賃の値上がりも理由の一つでしょう。アメリカ国内の住宅バブルの崩壊で生産量を相当落としている事も理由の一つとして上げられるでしょう。又日本の内需のその物が弱体化しており、対日本向けの輸出先のアメリカ・ロシア・マレーシア・インドネシア等の木材輸出国が、品質がうるさい日本国内に販売するより、まだ品質がうるさくない中国に販売するほうが、儲けが大きいと思っている事も理由として上げられるでしょう。又、これから経済発展が期待されるアフリカ諸国がアフリカに有る木材資源を使い始めているのも理由の一つでしょう。

しかし、最大の理由は天然資源である木材の絶対的な枯渇に有ると思います。中国が買おうが、インドが買おうが供給先に十二分に資源が有れば、値上がりは一過性になるのですが、これから起こってくる木材資源の値上がりは、今まで経験した事がない事かも知れません。鉄に使われる鉄鉱石や原料炭のような、動きになるかも知れないと私は非常に不安になっています。

鉄鉱石や原料炭の価格は安い時の価格と比較すると3倍の値上がりが現実に行なわれています。ただ鉄は木材資源と違いリサイクルの技術を使えます。古い鉄を溶かして新しい鉄に作り変える事は可能です。木材資源はそうは行きません。今の日本の木材の使い方では、古い家を解体しても製紙原料やMDFの原料しかリサイクル出来ません。これから木材資源の価格変動に注意を払っていただきたいと思います。

鉄鉱石や原料炭・石油資源等の鉱物資源等の価格推移は為替の変動を除けば絶対的な推移は見られると思います。しかし木材資源は産地の違い・製材工場の違い・グレーダーの違い・品質劣化の状況等々余りに多用な要素が多すぎます。これから先の価格変動は現在、木を触っている現場の当時者しか解からないと思います。それが出来るのはおのおの専門樹種を手がけている材木屋だけだと思います。

私は生粋の雑木屋です。現在も現役でしかも現場で木を触っています。その感覚から言えば広葉樹原料の価格上昇は、服部新聞第51号を書いている時と、私が服部商店に入った27年前を思い浮かべ、これから数年先の予測を総合的に判断してみると、20%~30%迄で納まってくれば、価格はそうは上がっていないと思いますし、最大40%~50%迄の価格上昇なら十二分に対応出来ると思っています。しかしそれ以上かも知れないと危惧はしています。

日本にヒノキ・スギの建築用構造材が凄く豊富に有るのに何故外国産の品質の落ちるホワイトウッドを大量に使うのでしょうか。私は理解できません。材木屋として日本国内に無い物（特に広葉樹類）は買わざるを得ないと思いますが有りあまっている材（スギ・ヒノキ）を使わないのは理解に苦しみます。